

## ① 第2回「うねり性波浪」委員会(3/27開催)の主な指摘事項とその対応

	指摘事項	対応内容
潮位と周期の影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄り回り波が来るときは、潮位変動(1～2分程度)が生じるので、構造物の安定性や被災のメカニズムに影響する。今後検討が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄り回り波の来襲に加え、潮位上昇も判明していることから、解析条件を決め、詳細に検討。 【資料－2】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長周期の成分については、波高や周期がどうなっており、どういう場所で発生しているのか等について検討が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細な海底地形データ(「沿岸の海の基本図」(財)日本水路協会;平成14年発刊)を用い、①富山湾全体の波浪再現計算(エネルギー方程式)②スペクトルを考慮した伏木地区の波浪変形計算(ブシネスク方程式)を実施。 【資料－2】</li> </ul>
海底地形の影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・波長300mのうねりが来ており、水深150m位から海底地形の影響を受けるので、詳しく計算する必要がある。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑な海底地形やうねりのスペクトル形状も考慮した検討が必要。</li> </ul>	
消波ブロックの沈下の影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防波堤の消波ブロックが沈下しているので、衝撃的な波が発生する。こういう不完全消波の場合の安定性のチェックが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消波ブロックの沈下を考慮した構造物安定計算の実施。 【資料－2】</li> </ul>

## ② 第2回WG(4/17開催)の課題

	課題	対応内容
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の高波に関する各省庁の委員会資料をデータベース化して公開する。</li> <li>・海底地形と沿岸の地形の取り扱いには注意が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北陸地整港湾空港部では5月12日対応済。</li> <li>・対応済。</li> </ul>